

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(ユニット1階)

事業所番号	2772401259		
法人名	社会医療法人 美杉会		
事業所名	グループホーム 美杉		
所在地	大阪府枚方市西招提町2166番地		
自己評価作成日	平成29年12月9日	評価結果市町村受理日	平成30年3月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.osakafusyakyo.or.jp/hyouka/hyoukaC/kohyo/index.htm">http://www.osakafusyakyo.or.jp/hyouka/hyoukaC/kohyo/index.htm</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	平成30年2月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の個々の思い、願いに寄り添ったケアを実施して、生活を楽しく安心して過ごして頂ける様に、日々雰囲気作りに努めています。また、その人らしい生活を過ごして頂ける様に、本人・家族の方と共に話し合いながらQOLの向上に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

月曜日は歌やボール投げ 火曜日はかるたとラジオ体操 水曜日は早口言葉とボーリング 木曜日はしりとりとゲーム 金曜日はあの日あの時あの場所で(若いころの話) 土曜日は歌を歌う、そして中庭園芸 日曜日は新聞読みと風船バレー これらは一つのユニットで行われている、利用者の自立と、生きがいづくり、楽しみづくりとして職員が知恵を出し合って実践している支援の一つである。利用者・家族・職員の良好な関係づくりのために、家族会を年2回開催して利用者との楽しい時間を過ごしてもらうと共に、事業所の近況を報告し、家族の希望を聞く場としている。介護面の工夫では、浴室に利用者毎の「入浴支援の注意事項・マニュアル」が掲示されている、これは職員持ち回りで「入浴係」が決められていて、係になった職員が利用者全員の入浴支援時の心得を考えて一覧表にしたものである。区民体育祭や菊展見学など地域との関わり合いに関する支援にも積極的に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日常的な話し合いを行うと共に部署会議やケースカンファレンス(認知症に関わる検討会議)の時等に理念を元に話し合っています。	「一人ひとりの思いを理解・尊重し、大切にしていきます」「利用者さんが安心して生活できる雰囲気・環境づくりに努めます」「地域の中でその人らしい生活が支援できるように、地域とのつながりを大切にしていきます」を目標として、理念に沿った活動の確認を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年に数回小学校で行われる地域行事に参加したり、近所のスーパーや飲食店に行く等、交流の機会に努めています。	地域の敬老会、運動会(区民体育祭)が小学校で開催されるときは参加したり、近隣の店舗に買い物に出かけるなど、日頃の暮らしの中で地域との接点を持つように努めている。併設のデイサービスの利用者との交流もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	二カ月一回開催している運営推進会議を通して、構成員の方から寄せられる、地域における認知症に関する相談に対して、事業所として可能な限り、助言、支援を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二カ月に一回開催しています。会議での御意見をサービスの質の向上に繋げる様に努めています。	地域の民生委員、家族、利用者、地域包括担当者が参加して、2か月に1回の頻度で開催されている。利用者の生活面、健康面、レク、地域行事参加状況等を詳しく情報公開を行っている。	一人ひとりの思いに沿った支援に向けて、職員が取り組んでいる工夫や仕組みがある。介護という仕事を理解してもらい意味でこれらの取組の情報発信も期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要に応じて連絡を取る様にしています。	枚方市の行政窓口とは事業所の運営状況の報告や介護関連の情報収集を密にすると共に、他事業者との地域グループごとの情報交換や研修会に積極的に参加するように努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居者の安全を確保しつつ、一人一人の自由な生活を支援出来る様に努めています。	併設されている系列の介護事業所と共に研修会・勉強会が開催されて「身体拘束の防止・虐待防止」について職員は学習している。利用者個々の状況に応じて拘束を防止した支援方法を職員間で相談して実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	部署会議や勉強会で意識の向上に努め、入居者の御家族からも意見を聞き、状況の変化に注意を払っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	適宜関係機関と相談しながら支援に努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結ぶ際に、御家族との話し合いを十分持つ様にしています。不安な事柄や疑問点について理解を得られる様に説明を行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に2回家族会を開催しています。また、玄関には御意見箱を設置しています。	ホーム便り「月刊ゆうゆう」では利用者の暮らしぶりを写真入りで詳しく知らせている。6月と12月には参加しやすいように行事を開催して家族会を行い家族同士の交流に繋げている。家族の来訪時には健康状態や日ごろの暮らしぶりを詳しく報告している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃より職員と話し合う場を持つ様にし、職員が意見を出しやすい雰囲気作りに努めています。	管理者は日常の業務を通して職員の考えや、意向を把握して本人の育成面を考慮しながら意見交換を行っている。チームケアを充実させるために、職員個々に役割意識を持ってもらうようにしている、ミーティング記録には良かった点と課題点を記すようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人一人が向上心を持って働ける様に職場の環境整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職場での勉強会を定期的実施しています。法人内研修は職員の段階に応じて実施しています。また外部研修の受講についても支援しており、今年実践者研修や喀痰吸引研修を受講した職員がいます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センターの指導の下、地域内三つのグループホームが集まり、月一回の会議を初めとして情報交換を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には、見学に来て頂き、御本人、御家族からの要望や不安な事等を確認する様にしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	いつでも御本人や御家族が来所や電話出来る様に対応しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居する際に御本人、御家族と面談を行い、必要とされる支援を確認し、計画作成担当者を含めた職員で話し合い、支援内容を検討しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常の時間を共有する事でお互いの思いを感じる事が出来る様に努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来所時や電話連絡した際には、最近の状況を報告したり、問題が発生した時には、原因を解決出来る様努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族の情報、協力を得ながら支援出来る様に努めたいと思っています。職員の会話の中に馴染みの人や場所の話題を出す様にしています。また併設施設の利用者との関係も継続しています。	併設のデイサービス利用からの入居者の場合は、時々デイサービスフロアを訪問して知り合いと会話を楽しんでいる。家族の協力を得ながら、以前からの馴染みの場所や店への訪問も支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の橋渡しの役割が出来るように職員間で情報交換を行ない、入居者同士が心穏やかに関わりが持てるように支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	グループホームから連絡をとる事はしていませんが、会う機会があった場合は、必ず声を掛けて、状況を確認するようにしています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の思いを聞く機会を持つようにして入居者が何を望んでいるか把握するように努めています。	職員は利用者の思いや望んでいる事、望まないことをじっくりと時間をかけて聞くように努めることで、利用者との信頼関係を構築することに努めている。自立する自信が持てるように支援して元気を取り戻した事例もあり、職員の介護方法のスキルアップにもつながっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御本人や御家族から生活歴や馴染みの暮らし等について話を聞く機会があれば、記録に残して職員間で周知出来る様に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一緒に話をしたり、作業する中で様々な方面から入居者を見るように努め、職員間で話し合う様にしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日のケアの中で入居者の状態や気付きの記録を残すことに努め、月一回の認知症ケア会議で職員間の伝達を実施しています。	毎月のカンファレンスが時間をかけて行われ、利用所個々の現状の確認、当面の課題・目標を確認し参加者全員で支援方法に関する意見を出し合って議事録を作っている。介護計画の見直しが必要と判断した場合は、家族にも報告して3か月、6か月、必要により随時の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者一人一人の介護計画を把握して、それに基づき記録が出来る様に努め、適宜介護計画の見直しを行なっています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者一人一人の要望を聞き出せるように努め、状況に合わせた支援が出来る様にしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のお祭り、小学校の地域行事に参加させて頂いています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	一カ月に2回の往診にて、看護師や医師に報告・相談しています。また、往診日以外でも体調に変化があれば連絡しています。御家族からの要望があれば医師と話し合える機会を設けています。	協力医療機関の内科医は月2回往診している。受診希望時は連絡書を送り、順番が来ればファックスで10分前に連絡が入り、職員が付き添う。歯科往診、口腔ケアは月2回。看護師は老健から来る。以前からのかかりつけ医による対応は現在1人の利用者が利用している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師1名配置し、常に連絡がとれる体制を確保しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	協力医療機関へ入院した際には、こまめに入居者の状況を確認し、御家族とも連絡、相談が出来る様にしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	御家族とこまめに話し合う機会を設けるとともに医師、看護師、御家族と連携が図れる様に努め、職員全員で共有しています。	終末ケアは施設での看取りを希望する人もいる。家族の希望で提携病院で世話になりたいと願う人や、他県を希望する利用者もいるので、医者を交えて良く話し合うことで希望に沿うようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会に参加し、定期的に訓練を行なっています。また、24時間看護師と連絡が取れる体制になっています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職員の意識啓発に努めています。併設の老人保健施設と合同の訓練が有り全ての職員が順番に参加出来る様に配慮しています。災害発生時に備えて、飲料水等を準備しています。	併設の老人保健施設と合同で年2回、夜間も想定して訓練を実施。職員全員が最低1回は参加出来る体制を取っている。老人保健施設と共有の備蓄も3日分は用意し、運営推進会議にも消防訓練等の報告をしている。駐車場を一時の避難所と定め、伝達マニュアルも作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の誇りやプライバシーを大切にしながら関われる様に職員の意識を高める事に努めています。	利用者人格の尊重とプライバシーへの配慮については、職員が気づきを重ね、意識を高めている。日々のカルテに目を通し、ケア会議の議事録を大切にし、利用者の観察を怠らないように努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の言葉に耳を傾け、望んでいる事に気付く様に努め、入居者の思いを尊重出来る様に支援しています。(衣類の決定やレクリエーションの参加等)		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	御本人や御家族から今までの暮らしぶりを確認し、どのような生活を望んでいるのか話し合い、支援を行なっています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	御本人の希望を確認し、御家族とも相談しながら行なっています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	コップにお茶を入れる人、下膳をしてくれる人、洗い物をする人等、個々に合わせて役割を持って頂いています。	全般に併設の調理部門である栄養課が献立を考え、併設の老健で作られて搬送されて来る。利用者はテレビを見ながら食事をしている。職員達は必要な利用者に対して話しかけながら食事介助、目配りしながら、こまめに動いている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスも考慮して支援を行なっています。食事の摂取量が極端に減少した場合には、医師、御家族と話し合い、個々に合わせた支援を行なっています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人一人に合わせた口腔ケアを行い、口腔内の清潔保持に努めています。必要に応じて家族に歯科往診を依頼しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄リズムを知る事で排泄の自立に向けた支援に取り組んでいます。	排泄係を設けている。自立を維持する為にタイミングを見つけ声掛けをし誘導している。夜間はナースコールで職員を呼んだり自発的にトイレに行く利用者もあり、自立に向けての支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便確認や食事量、水分量の把握をし水分摂取、ヨーグルト摂取を働きかけています。また、散歩等の適度な運動も支援しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望を尊重しながら、頻度等を考慮しています。ただADLの低下で二人介助の必要な方は、曜日や時間が限られてしまう場合があります。	入浴担当係を設けており、浴場の入り口には大きな文字で「入浴注意事項」が書かれたメモが貼られている。入浴は個室の一般浴槽であるが、跨ぐことの出来ない利用者はドア昇降式浴槽を使用している。季節により菖蒲湯や、ゆず湯等で楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はリビングや居室で自由に過ごして頂いています。夜間眠れなくて起きている方には、見守りを行ない、話をして気持ちを和らげたりしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診や受診の際に医師より説明を受け、御家族にも報告を行なっています。不明な点や症状に変化があれば、医師や看護師に相談しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴や趣味等は記録に残し、部署会議やケアカンファレンスの中で話し合いを行ない、出来る事から実現していける様に支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人一人に合わせた外出が企画出来る様に御家族と話し合いを行ない、支援していきたいと思っています。	ドライブ、紅葉見物、枚方近辺、淀川、松花堂庭園、区民体育祭、敬老の日の参加、買い物、外食、コンビニエンスストアでのショッピング等に行き、状態や状況に合わせて個別対応をしている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物の際に支払いをして頂く事があります。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があれば掛けられる様に、御家族の意見を聞きながら援助しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロア内に季節毎に壁画を作り、季節の変化を楽しめる様にしています。	写真担当職員が設けられて、職員全員の紹介の写真が玄関に大きく貼られている。リビングは広くゆったりとして、思い思いの場所でテレビ観賞や将棋をしたり、職員と語らっている。大きなテーブルには季節の花が生けられており、リラックス出来る空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングで自由に過ごせる様にしています。日々の生活の中で座る席も何となく決まっており、気の合った入居者さん同士で楽しそうに会話している姿も見られます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時あるいは、適宜、御本人や御家族の意向を確認し、使い慣れた机や椅子、趣味に関する物を持って来て頂き、使用されています。	部屋は優しい日が差し込み、ベットでまどろんでいる利用者もいる。持ち込まれた利用者の机や椅子、テレビが配置され、大量の家族の写真や、切り絵が飾られて微笑ましい雰囲気である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、居室、浴室等、段差が無く、手摺も設置されているので、安全に移動出来る様になっています。居室には洗面台が設置されていて、起床時の整容等も見守りの下、行って頂いています。		